

令和6年度 いのちの授業 事例集（小学校）【総合的な学習の時間】

掲載数

96

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小5	総合的な学習の時間	自然はおもしろい	八ヶ岳と川崎の環境を比較して、どのような違いがあるのか、なぜ違うのかを事前に調べた。八ヶ岳に行ってさらに調べたいことを見つけ、わかったことを伝え合う活動を行った。	
2 川崎市	小3	総合的な学習の時間	下河原のたからもの	下河原小学校は多摩川に面していて、豊かな自然が目の前に広がる。生活の中で多摩川にふれあうことが多くある。しかし、多摩川の川の中にどのような動物や魚、虫がいることはあまり知られていない。そこで実際に川の中に入り捕まえてみたところ、多くの生き物が住んでいることがわかった。そこから多摩川を見つめ、大切にしようとの学習が始まった。実際には調べたことをまとめおうちや人や他学年に知らせ、環境を大事にすることが生きているすべての命を大切にすることにつながることを伝えた。	多摩川クラブ主宰を講師にお招きして、多摩川ガタガタ探検を行った。多くの生き物が人間と共存する事実を知り、多摩川に対する愛着心を培った。
3 川崎市	小4	総合的な学習の時間	心もバリアフリー	<p>肢体、聾、盲の3つの身体的な障害について調べることから始めた。多くのユニバーサルデザインを知るとともに、健常者なら何でもない物理的な障害も、障害がある方にとっては大きな障壁になることを知り驚いていた。</p> <p>車いす、視覚障害、妊婦、高齢者について疑似体験を行った。実際に体験することで、想像以上に恐怖感や負担がある事を感じることができた。</p> <p>元パラリンピックの水泳選手の話では、障害があっても人生を悲観することなく、目標をもって前向きに生きる事のすばらしさを感じることができた。</p> <p>話し合いや発表を通して、互いの違いや良さを認め伝え合うことができた。また、体験したことや話を聞いたことを通して、自分自身の生活を振り返り、これからは生かそうとする姿が見られた。</p>	講師 ・四肢障害をもつ小学校教員 ・聾学校の教員 ・元パラリンピック水泳選手
4 川崎市	小4	総合的な学習の時間	防災・福祉「つなごうやさしい町」	生活する地域のみみんなが安全に暮らすために、どんなことができるのか、学習課題を立てて調べることにした。地域には、色々な人が暮らしていることが分かった。年配の方、車いすや目の不自由な方なども含め、社会全体が安全・安心に暮らすための工夫（ユニバーサルデザインやバリアフリーなど）を知った。誰もが、安心・安全な暮らしができるような環境作り、また、自分たちができることなどを実践を通して学んだ。	

5	川崎市	小6	総合的な学習の時間	命のかがやき	助産師を講師に招き、講演を聞いた。受精から生命誕生までの確率、赤ちゃんの誕生までのプロセス、へその緒の役割、出産の実際等を模型や映像、助産師の語る経験から学び、命の大切さについて学んだ。児童は自分の命のありがたみを改めて感じる時間となった。卒業を迎え自分史を振り返るこの時期に合った内容であった。	助産師
6	川崎市	小5	総合的な学習の時間	いじめ防止授業(見て見ぬふりをしない)	子どもたちが、いじめはいけないことと実感し、いじめの場面に遭遇したとき、単なる傍観者ではなく、自分にできることをする、行動できるようになることを目的としてい。3部構成行われ、最初は体験を思い出す時間、次に児童の体験を再現する時間、最後に、いじめを止める行動を練習する時間がある。いじめをやられる人がどんな気持ちになるかがわかった。やる方は、軽い気持ちや遊びでやっていることがわかったと答える児童もいた。	講師は、劇団プレイバックーズ 演劇を取り入れての授業
7	川崎市	小4	総合的な学習の時間	安全安心について考えよう！自分のできることをやってみよう！みんなの本気がAAAへの第一歩	「安心・安全とは何か」から始めた。国語とつなげてこの学校は安心・安全かについて校長が講話を行った。学校の安心安全について職員に取材し、ポスターで交流をした。訓練、非常用袋、施設面は整っているが、避難までの時間を縮めるなど人間の問題に気づいた。社会の自然災害の学習をして、地域の安全について調べ、土嚢ステーションや備蓄がされていることを知った。かけがえのない命を守るために自分のできることを、自然災害、事故、事件に分かれて考えた。	国語「聞き取りメモの工夫」社会「自然災害にそなえるまちづくり」校長、職員・・・学校の取り組みを知った
8	川崎市	小4	総合的な学習の時間	やさしい南野川のまち～防災～	自分たちの住む南野川のまちで災害が起きるとすると地震が主なものになるだろうということで、地震が起きる前の準備・地震が起きるメカニズムや歴史・地震が起きた後の3チームに分かれて調べ学習を行った。 教頭先生にインタビューをしたり、クラスの友達にアンケートを取ったりして、まとめていった。授業参観のときに、保護者の前で調べたことを発表した。	
9	川崎市	小3	総合的な学習の時間	下河原のたからもの	下河原小学校は多摩川に面していて、豊かな自然が目の前に広がる。生活の中で多摩川にふれあうことが多くある。しかし、多摩川の川の中にどのような動物や魚、虫がいることはあまり知られていない。そこで実際に川の中に入り捕まえてみたところ、多くの生き物が住んでいることがわかった。そこから多摩川を見つめ、大切にしようとの学習が始まった。実際には調べたことをまとめおうちや人や他学年に知らせ、環境を大事にすることが生きているすべての命を大切にすることにつながることを伝えた。	多摩川クラブ主宰を講師にお招きして、多摩川ガタガタ探検を行った。多くの生き物が人間と共存する事実を知り、多摩川に対する愛着心を培った。
10	相模原市	小4	総合的な学習の時間	みんながやさしい みんなにやさしい淵野辺～ふだんのくらしをしあわせに～	さまざまな人の立場にたって考え、自分ができることを実践していこうとする意欲を高めるため、車椅子バスケット体験や発達障害児童への理解のための出前授業を行った。選手の方々の障害を乗り越え、バスケットに励む姿や日常生活の話、発達障害児童の困り感の実体験など、実際に交流し経験することで新たな気づきが多く生まれた。個々の違いを認め合うことについて考えることができ、地域の一員として自分ができていることに進んで取り組んでいこうとする気持ちをもった。一人ひとりが目標をもって活動を進め、他者理解を深めていこうとする姿が見られた。	講師は車椅子バスケットチームに所属する選手とスタッフ、市内のNPO法人団体 社会福祉協議会の協力を得て、様々な団体との関わりを持つことができた。

11	相模原市	小4	総合的な学習の時間	だれもが安心して	車いす生活をされている方から、車いす生活を送るようになった経緯や普段の生活について話を聞いた。交通事故で足を切断し絶望したけれども、車いすバスケの存在を知り今は仲間とバスケを楽しんでいる様子を目の当たりにした。車いすの生活は大変だと思っていたが、実際は色々なことができ、ひとりではできないことは周りの人の助けをかりていることを知った。助け合いの大切さ、いのちの大切さについて考える児童もいた。	講師は、湘南車椅子バスケットボール体験講座隊
12	相模原市	小4	総合的な学習の時間	カイコと桑と相模原	6月からカイコの育て始めた。育てる前に博物館の学芸員の方に、農業としてのカイコについて話をいただいた。この後、子どもたちは約1か月をかけて、カイコのいのちを大切にしながら、繭にすることができた。	学芸員の方のお話とカイコを飼うということ
13	相模原市	小3	総合的な学習の時間	命の尊さ・連続性 「相模川の生き物」	本校の3学年では、相模川の生き物を飼育し、命の尊さや命のつながりについて学んだ。相模原ふれあい科学館の職員を招き、飼育の責任や方法を教えていただいたが、実際に飼育する中で多くの命が失われた。その原因を調べたり、土に埋めたりする児童、飼育に罪悪感を抱く児童もいた。また、亡くなった生き物をエビが食べる姿を見て命の循環に気づく児童もいた。この活動を通じて、命を預かる重みや興味だけでは成り立たない責任に多くの児童が気づいた。さらに、活動開始時に見られた「死ぬ」「消えろ」といった言葉が減少し、命への意識が大きく変わったことが感じられた。	相模原市立ふれあい科学館職員
14	相模原市	小4	総合的な学習の時間	「身近な福祉について考えよう」	地域の高齢者や知的障がい者施設の方に来ていただいて話をうかがった。体の不自由な方の話を聞いて生活の大変さや自分にできることは何かについて考えた。授業を通して、児童の気持ちが、かわいそうという見方から尊敬する気持ちに変容した。障がいの有無で区別するのではなく、「みんな同じ」という気持ちが芽生えた。	10・11月に実施 社会福祉協議会
15	相模原市	小6	総合的な学習の時間	生きることのすばらしさ	器械体操の模範演技の時に怪我を負ってしまった中学校の先生。体を思う通りに自由に動かすことができない状態で、今できることを全てやろうと力強く生きている。その姿を児童に紹介し、どのような考えをもっていたのか、考え、話し合った。その人は、口でペンをくわえ、様々な作品を作り上げている。ちょうど、修学旅行で近くを訪れるので、その方の美術館を見学することにした。また、見学の事前指導として、美術館に連絡をして作品を模写し、児童全員で見合う活動を行った。作品一つひとつに作者の願いや人生、学びが込められていることを実感し、生きることがどれだけすばらしいことか感じることもできた。	「愛、深き淵より。」 作者 星野富弘
16	相模原市	小6	総合的な学習の時間	「災害が起きたときにできること」	大きな災害が起きたとき（今後起こりうる災害に対して）自分や家族、地域の人々の安全を守ることができるように自分たちにできることを考えた。応急処置、心肺蘇生法、災害時の家族間の約束、防災バッグの準備、地域の高齢者へのサポート、災害時に役立つ知識について調査したり、実践したりする学習を行った。また災害に対する備えや避難時の対応だけでなく、命を守ることにしても触れた。学年内での共有だけでなく、異学年や保護者にも活動した内容を発信し、防災意識を高めることにもつなげた。	年間を通して行う総合的な学習

17	相模原市	小4	総合的な学習の時間	パラリンピック	<p>4月から総合で人権・福祉的な学習に取り組むなかで、パラリンピック開催中に、ハイライト動画を視聴したりパラスポーツについて学んだりした。パラリンピックを応援したりさまざまなパラスポーツ競技を知ったりすることを通して、障害の有無に関わらず頑張る姿に感動したり認め合ったりすることを自然と学ぶことができた。</p> <p>12月には教育委員会からの物品貸与を利用し、3・4年生でゴールボールを体験し、視覚に頼れないことの大変さや、聴覚のみでプレイする難しさを実感することもできた。</p>	<p>2020東京オリンピック・パラリンピック時に配付された、国際パラリンピック委員会公認教材の授業用シート</p> <p>ゴールボール</p>
18	横須賀市	小5	総合的な学習の時間	防災教育	<p>カリキュラムマネジメントを行い多くの体験活動や国語科と関連させながら学びを積み重ねることで、当事者意識を高めながら防災知識や命の大切さについて深く学習した。学んだことは学校長へ問題提起文を提出したり校内施設設備の点検・課題改善活動を行ったりするなど、命を守るための具体的活動につなげた。</p>	<p>※実施月は通年</p> <p>地震体験車、AR/VR防災体験、携帯トイレ、液化化現象の実験、YOKOBOカード語り部ゲストティーチャー（東日本大震災）</p>
19	横須賀市	小5	総合的な学習の時間	食から地域の環境を学ぶ	<p>「食から地域の環境を学ぶ」をテーマに活動していた。自分たちの身体をつくっている、生きていくために重要な食について、普段当たり前のように食べている給食でも残食（廃棄）が多いという事実を知った。また、地域にも廃棄野菜・地域特産の食材があることに目を向けた。そこで、自分達には何ができるかについて考え、地域の廃棄野菜や食材を使用した「スイーツの販売」「お弁当の販売」「堆肥づくり」「クレヨンづくり」等の活動した。児童は各活動を通し、生きていく上での食の大切さや環境問題への認識を深めていた。</p>	<p>協力者・講師 ：地域の飲食店の方 農家・漁港で働いている方等</p> <p>※4月～継続中</p>
20	横須賀市	小3	総合的な学習の時間	「発見！田戸の魅力」～教え子の命を救った先生～	<p>自身の命を投げうってまで教え子の命を救い、亡くなる寸前まで救った教え子の安否を気にかけていた本校の元教員A先生の人柄や思いを親族の方からうかがった。児童はA先生の人柄や生き方について、感動しており、授業後のふりかえりでは、『「自分や人の命を大切にしてほしい」というA先生の思いをいつまでも大切にしたい』と発表したり、書き記したりする児童が数多くいた。</p>	<p>講師は本校元教員A先生の親族の方</p>
21	横須賀市	小4	総合的な学習の時間	公郷の町の自然環境を守ろう	<p>自分たちの町にはあまり自然はないかもしれないと思って思っているが、学校のピオトープなどにはたくさんの生き物がいることに気がついた。平作川・舞岡公園・衣笠山の自然や生き物を調査することで、貴重な自然がたくさん残っていることに気がついた。また、外来種などにより、生き物や自然環境が脅かされていることにも気がつき、貴重な生き物の命や自然環境を守っていききたいという思いをもち、学校や地域での啓もう活動を行うことにした。</p>	<p>横須賀市河川課職員 うわまち浄化センター職員 横須賀高校科学部生徒・教員 舞岡公園ボランティア</p>
22	横須賀市	小4	総合的な学習の時間	地域の防災について学ぼう	<p>社会で災害に備えるという学習があった。その際、自分たちが住む地域に流れる平作川でも、過去に大きな災害があったと知り、もっと地域の災害や防災について学びたいと考えた。まずは、災害の種類について学んだ。さらに地域の危険な場所を確認し、防災に対する備えや避難場所などを調べたり、地域の人に話を聞いたりしてまとめた。今回学んだ事は、家族や下級生に伝えることにより、みんなの大切な命を守りたいと活動を続けている。</p>	<p>・厚木総合防災センター ・近隣2町内会の町内会長による話 ・学校、町内会の防災倉庫の中身の確認</p>

23	横須賀市	小5	総合的な学習の時間	防災 「安全防災調査団～自分の命・人の命を守る～」	年間を通して防災について学習した。調べ学習や起震車体験、市役所危機管理課職員の講話、避難所運営ゲーム、防災公園見学、津波VR体験等、様々な活動を通して、自助・共助に対する意識が高まった。そして、自分の身を自分で守るためにどうしたらよいかを真剣に考える様子が見られた。さらに、自分たちが学習したことを校内に伝え、自助・共助の意識を広めようという考えをもった。※総合の学習で年間を通して行っているため、実施月を空欄にしてあります。	・横須賀南消防署消防局警防課 ・横須賀市長室危機管理課 ・東京臨海広域防災公園そなエリア東京 ・板宮朋基教授（神奈川県歯科大学）
24	湘南三浦	小3	総合的な学習の時間	野菜を育てよう	1年を通じて、ホウセンカ・ひまわり・だいこんを学年で育てた。成長の記録を取り、成長における過程の変化を観察することができた。それぞれの特徴を捉えて、まとめることができた。また、だいこんを育て、それをみんなで食するプロジェクトを立ち上げた。地域の学習の一環として、鎌倉の地にちなんで「けんちん汁」を作ることにした。「けんちん汁」の由来や作り方について詳しく調べてまとめることができた。	
25	湘南三浦	小5	総合的な学習の時間	働く人の想いを感じよう	総合的な学習の時間では、「働く人の想いを感じよう」をテーマに学習を進めた。これは、社会科で「農業」「水産業」「工業」を学習する中で、必ず「働く人の想い」に触れていたからである。そんな中、鎌倉の海岸に打ちあがった海藻を使って豚を育てている方の存在を知り、実際に現地に足を運び、講師を依頼した。授業の中で、子どもたちにどのような想いで豚を育てているのか、どんな苦労や工夫があるのかなどお話しいただき、命をいただくことについて考えた。	臼井農産代表 鎌倉海藻ポークを育てている人の想いを直に聞くことで、イメージがもてた。
26	湘南三浦	小3	総合的な学習の時間	蚕を育てよう	本校で毎年取り組んでいる蚕を育てる学習に、今年度も取り組んだ。児童一人ひとりが2匹ずつ蚕を育て、毎朝校庭から取ってきた桑の葉を与えていた。蚕の健康状態をよく観察しながら飼育を続け、繭になっていく様子を見届けた。観察カードには、成長の様子を細かく記していた。 人間にとって有意な物を作り出すために、繭から生糸を取り出す過程は、命とは何かを児童に問う過程でもあった。	蚕

27	湘南三浦	小5	総合的な学習の時間	お米を育てよう	<p>本校から10分ほど離れた場所にある「稲小こども園」で毎年育て続けているもち米作りに、今年度も取り組んだ。昨年12月に田おこしを行い、5月に代かき、6月に田植えを行った。地域の協力者に支えられながら、丁寧に苗を取扱い、田んぼに植え付けていった。</p> <p>児童は稲が成長する様子をよく観察し、疑問に思ったことをまとめ、自分たちで調べたり地域の協力者に質問をしたりしていた。収穫の時を、今から楽しみにしている児童たちである。</p>	もち米 地域の協力者 保護者ボランティア
28	湘南三浦	小5	総合的な学習の時間	「稚貝の放流体験」	<p>本校の同窓会の方々主催の「稚貝の放流体験」に参加した。学区にある腰越漁港に赴き、サザエの稚貝を提供してくれた、三浦市の水産技術センターの方々の説明を聞いたのち、地域の腰越漁協の人々が出してくれた漁船に乗り込んで、放流活動を行った。子どもたちは、稚貝をあるていどまで育ててから放流する「栽培漁業」であっても、大きく育てるのは20%ほどしかないという事実自然の厳しさを感じつつも、本来であれば卵からかえったサザエが大きく成長できる確率は0.001%以下だということを知り、改めて稚貝の放流活動の意義を強く感じている様子だった。放流後は、漁協の方々のご好意でしばらくクルージングを楽しむことができ、子どもたちは大変にご満悦だった。生き物の命をただ「いただく」のではなく、人の手によって命を支えることもできるということを知り、実感を持って体験できる時間だった。</p>	「腰小同窓会」 「腰越漁協」 「水産技術センター」
29	湘南三浦	小複合	総合的な学習の時間	平和講演会	<p>平和・人権を大切にする心情を育て、子どもたちの学校生活の中においても、命の大切さや、いじめや暴力を許さない仲間づくりなど、相手を非難・中傷することがない温かな学校にしようとする心を育てるために、「紛争中に生きる人々の暮らし」をテーマにウクライナ支援にかかわった講師の話を知り、命の大切さを感じることができた。</p>	ウクライナの隣国モルドバ元大使。現特定非営利活動法人ピースウィンズジャパン上席顧問
30	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	年間テーマ「食と〇〇」について 「食と命～いただきます」	<p>「ミーちゃんがお肉になる日」の絵本の内容を通して、「命をいただく」ことについて、みんなで考えた。</p>	
31	湘南三浦	小5	総合的な学習の時間	お米を育てよう	<p>学校に隣接した谷戸の一角を利用し、米作りを行った。4月から、田起こし、田うない、田植えを子どもたちの手で進めてきた。夏休み前には畔の雑草や、稲についた害虫を取り除き、手をかけて育てた。9月には念願の収穫を行い、小さな苗が大きく育ち、実ったことに、子どもたちは喜び・達成感を感じていた。また、収穫した稲を脱穀、唐箕、籾摺りし、実を外した藁は正月飾りの材料に使うことで、作物を余すことなく利用することの大切さも学ぶことができた。</p>	地域の谷戸ボランティアさんに協力していただいた。
32	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	食	<p>・一つの種からプロジェクト 給食の夏野菜カレー（材料の野菜）を子どもたちで作る目標を立て、野菜を育てた。振り返りでは一つの種から育てることの難しさを知り、収穫量の少なさや収穫時期のずれなど想像とは全く違った結果だった。 ルーから作った手作りカレーはまた難しく、日頃食べているカレーのおいしさ、そして食のありがたさを感じ取れた貴重な時間となった。</p>	

33	湘南三浦	小3	総合的な学習の時間	かいこ飼育	蚕に興味を持ち飼育をした。生命の尊さと昆虫の一生について学びを深めた。飼育方法や生態についても関心を持ち、本やインターネットを使って調べた。	
34	湘南三浦	小3	総合的な学習の時間	かいことともに豆腐をつくらう	卵からかいこを育て、まゆから糸をとった。その糸から家で用いるランプシェードをつくり、カイコの命が私たちの生活を豊かにしていることを知った。また、糸をとり終わったさなぎは学校のカメの食料にし、命は種を越えてつながっていることをあらためて感じることができた。 上記と同様に、大豆を種から育て、収穫し、豆腐をつくることで大豆の命が私たちの栄養になって、私たちの命をつないでいることを知り、どの食べ物も命であるということを実感することができた。	横浜シルクセンター (校外学習) とうふ工房「とちぎや」(出前授業)
35	湘南三浦	小複合	総合的な学習の時間	平和の話を聞く会	平和・人権を大切にしている心情を育て、平和・人権を守っていこうとする児童の育成のため、鎌倉市平和推進事業共生共創部と連携し、講師を招き、平和に関する教育を行った。 第2次世界大戦が起こってしまった経緯、戦争中の鎌倉の子ども達の暮らしや、当時の関谷小学区の様子を講和を聞いた。普段当たり前のように生活していることが、戦時下ではできず、また、身近な人や大切な人、自分自身の命も危ぶまれることを学び、世の中が平和であることの大切さを考えるきっかけとなったとともに、命の大切さを感じることができた。	講師：元中学校社会科 教諭
36	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	自然災害にそなえる町づくり	学校での起震車体験や市の危機管理課の方をお招きしての防災講話を通して、防災について学んだ。起震車体験では、実際の震度6強の揺れを体感したことにより、その後の授業で改めて自分の命を守るために必要な行動について考えている様子が見られた。また、防災講話では、地震による被害について知り、大地震への備えや地震後の避難の仕方などについて学び、家族や地域の方と協力する大切さについて考えるきっかけとなった。 その後、地震に関して興味をもったことについても調べ、多くの児童が命を守るための備えや行動について自分なりの考えを表現する様子が見られた。	講師は、藤沢市危機管理課の職員。 藤沢市のハザードマップ、防災ナビを活用することで、地震による津波の被害について知り、避難の重要性に気づき、避難場所について知ることができた。
37	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	防災教育「避難所シミュレーション」	本校は市内が一番海に近いということもあり、校内研究の「防災教育部会」を中心に、地震と津波から命を守る防災教育に力を入れている。4年生では、学校の防災用品を知り、長い避難所生活に必要な物を考えたり、身近な物で作れる防災品を作って他学年にも紹介したりした。「ダンボールベッドとビニール袋枕」は、実際に体験することができ、「すごい。作ってみたい。」「寝ていると、暖かく感じてくる。」などの声もたくさん聞こえてきて、非常に好評だった。	
38	湘南三浦	小6	総合的な学習の時間	松林防災学習	地域の消防団、推進協、PTA、保護者と防災について学んだ。消防団の方と一緒にいった放水体験。推進協、PTAの方で行った炊き出し体験。火起こし体験。地域の方で行った防災グッズの使い方。このような活動を通して、地域で災害が起こった時にどのように対応していくのかを子どもたち自身が考えるきっかけになり、命の尊さについても考える機会となった。	地域の消防団 推進協 PTA

39	湘南三浦	小3	総合的な学習の時間	カイコを育てる	かつて、茅ヶ崎市は養蚕業が栄え、年2～3回行われ、それぞれを春蚕、夏蚕、秋蚕と呼んでいた。その歴史を知る私たち3年生は、カイコを育てる体験授業を通して、命が繋がることの大切さ、重みについて学ぶことにした。生糸をとるため品種改良されたカイコは人間が育てないと生きられず、命を奪わなければ糸がとれない。カイコを育て、その命を奪うまでを体験した。生糸をとるために品種改良されたカイコは、人間が桑の葉を与えないと生きられず、繭のまま羽化する前に命を奪わなければ糸をとることができない。カイコのためにどんな天候の日も、毎日桑の葉を与え、3週間、生糸を吐き続ける様子を間近に観察しながら、成長を感慨深く愛情を注いだ。	
40	湘南三浦	小複合	総合的な学習の時間	人権の花運動 「人権の花を咲かせよう」	市人権擁護委員会の方々がゲストティーチャーとして招き、人権についてお話ししていただいた。子どもたちは、人権に関する紙芝居から、「人権とは誰もが生まれながらに持っているもの」「すべての人が幸せになる権利があり、そのためには相手の気持ちを考えること」を学んだ。人権教室の最後には、一人一株、花（人権の花）をプランターに植えた。その後、人権の花を咲かせようと、子どもたちは毎日欠かさず水やりに取り組むことができた。	市人権擁護委員会 小学校3・4年生
41	湘南三浦	小4	総合的な学習の時間	海の環境を守る～アマモの再生活動を通して～	環境教育の一環として、葉山町の漁業従事者、地域のダイバー、地元企業の研究者の協力を得て、「アマモ再生活動」に取り組んでいる。 地元漁師及び研究者の方から、アマモの減少状況とアマモを再生させていくことの意義やその方法などについてお話を伺った。その後、実際に、紙ポットに土を入れ、アマモの種をまいた。ポットは、プールサイドの大型水槽で育苗し、児童はその様子を春先まで継続して観察する。	鹿島建設葉山水域環境 実験場主任研究員・助手 葉山町漁師の方
42	県央	小5	総合的な学習の時間	米づくり	年間を通して、田んぼで稲作を行ってきた。稲作を通して人は動植物の命をもらって生きているということが分かった。生きることは食べることであり、日々、命をもらって自分の命を紡いでいるということを通して深く考えた。実体験を基にすることで多くの児童が自分事としてとらえ、意見を述べていた。話し合いが進むと毎日不自由なく食事がとれる私たちは幸せで、そうでない人々のために何が出来るか考える児童もいた。	講師は、地元の農家の方。
43	県央	小6	総合的な学習の時間	キャリア教育	キャリア教育の一環として国境なき医師団で活動経験のある外部講師の方から話を聞いた。日本とは全く違う世界各国の「当たり前」について食べ物や文化の話を交えながら楽しく話をしてくださった。その一方で、貧困国では、十分な食事や適切な医療を受けられず、毎年多くの子供たちが命を落としているという現状についても触れていた。児童は真剣な表情で話を聞き、日々生活できているありがたさや自分たちにできること、命の大切さについて深く考える姿が見られた。	講師は、国境なき医師団で活動経験のある方。
44	県央	小4	総合的な学習の時間	生命の誕生	助産師さんが来てくださり、2クラスずつ分かれて授業を受けた。お母さんのおなかの中で赤ちゃんがどのように成長するか学んだり、赤ちゃん人形を抱っこさせていただいたりした。「自分達がたくさんの方に大切にされながら育ってきたこと」また「命の尊さ」を感じる事ができた。	

45	県央	小6	総合的な学習の時間	いのちについて	戦争についていろいろな方法で調べ、まとめた。また、卒業に向けて、学んだことをい かし、自分の生き方につなげて考えた。	
46	県央	小4	総合的な学習の時間	「いのちの教室」	市立病院の助産師さんをお招きし、赤ちゃんが生まれてくるまでの過程を学んだ。生命 の誕生について知ること、自分が大切に守られ育てられてきた命であること、親への感 謝の気持ち等を感じている児童が多かった。	講師：市立病院助産師
47	県央	小6	総合的な学習の時間	「平和学習 ～戦争体験語り部～」	事前に社会で戦争について学んだ後、戦争語り部の方をお招きし、「地球船を救え！～ 広島を未来へ～」というテーマで、原爆を落とされた広島の様子、人々の様子、原 爆の恐ろしさなどを、画像とともに話ししていただいた。画像とともに、子ども達が想 像しやすいよう具体的に話してくださったので、イメージを広げながら聞くことができ た。戦争の悲惨さももちろん、命の大切さ、未来を担う自分たちができることは何かを考 えるきっかけとなった。今後は、自分たちにできることに考えをまとめ、学習発表会を行う 予定である。	講師：戦争語り部
48	県央	小4	総合的な学習の時間	命の誕生	命がどのように誕生し、どのようにお母さんのお腹の中で成長するのかを、助産師さん の話を聞き学んだ。また、出産の様子を映像で見たり、赤ちゃんの人形を抱いたりする体 験も行い、命の尊さについても実感している様子だった。	講師：大和市立病院 助産師
49	県央	小3	総合的な学習の時間	大豆の成長	1学期に大豆の種を植え、水やり、観察を続け、植物が生長していく過程を学んだ。2 学期には、収穫した大豆を使い、きなこを作って育てた命をいただく体験をした。	国語「すがたをかえる大豆」
50	県央	小6	総合的な学習の時間	平和と命	講師の母が被爆された経験を、原爆の知識とともに話を聞いていただいた。原爆の被害 などの状況などを聞き、原爆の悲惨さ、身近な人の死をより具体的にイメージする中で、 命の儚さや戦争の悲惨さについて考えた。また、戦争の起こるメカニズムや人々の思いな どをディスカッションしながら考えることができた。	講師：神奈川県原爆被 災者の会 被爆二世
51	県央	小4	総合的な学習の時間	やまと♡いのちの教室	○いのちの始まる話を聞いた。 胎児がおなかの中で自ら誰にも教わらずにやっていること、胎児のすごいところを知る。 ○出産の様子を知る。 ○出産の様子をDVDで見る。 ○生まれた後の話を聞く。 ○赤ちゃん人形を抱っこする。	講師： 市立病院看護部4階東 病棟 助産師 こども部すくすく子育て課 保健師

52	県央	小4	総合的な学習の時間	やまといのちの教室	<p>始めは点のような大きさだった命が、おなかの中で大きく育って誕生するまでの過程や、人形を使って赤ちゃんが自分の力で外の世界に出てくる過程などを見せてもらった。また、授業の最後には実際の赤ちゃんの重さの人形を一人ひとり抱っこをした。自分や友だちが歓迎されて生まれてきたことや大切にされて育てられたことを感じられたようだった。</p> <p>後日、養護教諭と連携し、保健で扱う第二次性徴(思春期にあらわれる変化)についても、いのちの教室で知り得た「いのちの原点」と関連付け、系統立てながら指導することで、学びを深めることができた。</p>	講師は、大和市すくすく子育て課保健師・大和市立病院小児科医。赤ちゃんが生まれる瞬間のDVDや赤ちゃん人形などを活用。視覚的・体感的にいのちの重さを感じることができた。
53	県央	小4	総合的な学習の時間	やまといのちの教室	<p>助産師・保健師の方に来ていただき、胎児が次第に成長するときの大きさが実感できる掲示物を使って、誰にも教わず様々なことを行っている胎児のすごさを教わった。また、出産の様子をDVDで視聴し、出産は命懸けで行われることに驚いている様子だった。そして、実際の重さと同等の赤ちゃん人形を抱っこする活動では、命の重さを実感して大切に扱おうとする姿勢が見られた。児童の振り返りでは、自分を含めたみんなが、お家の人の命を懸けて生まれた命であるため、お互いの命を大切にしようとする姿が多く見られた。</p>	講師：助産師の方1名 保健師の方1名
54	県央	小6	総合的な学習の時間	命	<p>1年を通して、「いのち」という大きなテーマを、差別・災害・いじめ・戦争・命の誕生などに分類し、児童が自分が最も興味を持ったものについて調べるという形で学習を進めている。1学期、2学期には命について「知ること」を進めており、それぞれのテーマに関連する動画を見せたり道徳や国語の教材と絡めたりして命の大切さについて理解を深めさせた。そして、現在世の中で抱えている問題に対して自分たちができることは何かを考えた。</p>	
55	県央	小6	総合的な学習の時間	命	<p>戦争の語り部の方をお呼びして、戦争の悲惨さをお母さまの体験を通してお話いただいた。原子爆弾の威力の恐ろしさに子どもたちも自分事としてとらえることができた。最後には、「今の自分がよいことができているのか、悪いことをしてしまっているのか」問いかけてくださり、自分の振る舞いを振り返る機会となった。</p>	講師：戦争語り部
56	県央	小5	総合的な学習の時間	地産地消を広げる	<p>地産地消について調べる中で、農家さんに地元の野菜のよさについて聞いたり、農業に対する思いなどに触れたりした。そして地産地消のよさを地域の人にも理解してもらおうと農家さんに協力してもらい地域のイベントで野菜を売ったり、地産地消の良さについてプレゼンテーションを行ったりした。</p>	
57	県央	小4	総合的な学習の時間	まちの福祉	<p>自分たちのまちでは福祉についてどのような取り組みがなされているかについて、民生委員さんに話を聞いたり近くの公共施設に見学に行ったりした。その中で高齢者の方々が行っているカローリングに出会い、自分たちがカローリング大会を開きみなさんに喜んでもらいたいということになった。市の文化スポーツ課に協力を頂き大会を開いた。</p>	

58	県央	小4	総合的な学習の時間	ミニトマトを育てよう	地域の農家の方が育ててくださった苗をいただき、苗が徐々に育ってきた喜びを感じながら、育てる大変さを感じることができた。ただ育てるだけではなく、実を多くつけたり、大きくしたり、おいしくなったりするための工夫を実践することで、農家の方の苦労や喜びを知ることができた。工夫しながら育てたミニトマトを、最後に食べ、人や植物への「感謝の気持ち」をもつようにした。	協力：地域の農家の方
59	県央	小5	総合的な学習の時間	防災教育 災害から身を守るために	年間を通して防災について学習している。どのような災害があるかを調べ、そのためにどのような備えができるか考えた。また、地域の方から実際に被災地へいった話を聞いたり、家族で災害対策について話し合う機会を設けたりした。このような取り組みを通して、自他の命を守る術を学び、自分たちに何ができるかを考えた。	協力：地域のボランティアの方々 ハザードマップ
60	県央	小4	総合的な学習の時間	命を守る防災教育	「防災クロスロード」いつ起きてもおかしくない地震について考える授業。「学校にいる時に地震が発生！みんなで避難することに。しかし友達が一人見当たりません。その時、あなたならどうする？」などのような問いに「yes」か「no」で答える。明確な答えがない質問に対して、それぞれに判断し、友達と意見交換した。どうすれば命を守れるのかについて事前に考えを持っておくことが大切という思いを深めることができた。	防災クロスロード
61	県央	小5	総合的な学習の時間	防災	東日本大震災の被害状況や2次災害について動画を視聴し、地域や学校の備えや備品などを調査した。そして、自分の備え（持ち出し袋）について考えた。備えがあることで防げる被害もあり、自分事として考えることができた。	
62	県央	小4	総合的な学習の時間	防災教育「かけがえのない命」	阪神・淡路大震災でかけがえのない命と大きな夢を奪われた「ゆずちゃん」の話を読んで感じたことや考えたことを話し合った。命が奪われることにより、夢や幸せも同時に奪われ、周りの自分を大切に思ってくれている人たちを悲しませ、日常生活までも奪っていくことを感じる事ができた。これからも、自分の命と大切な人の命を守るために出来ることを学び、それを周りの人たちに広めていき、多くの人の命を救いたいと防災に対する意識を高めていた。	教材「ゆずちゃん」 ポプラ社 肥田美代子 作 石倉 欣二 絵
63	県央	小複合	総合的な学習の時間	食について	高座豚の飼育や種類、生き物を扱う大変さや命の大切さなどについて講義をいただいた。また、生き物を育てている方たちや食物を育てている人たちは、もちろん食べてもらいたいが、残さず食べてほしいという思いにも触れることができた。	5年 講師 元日本養豚協会会長
64	県央	小3	総合的な学習の時間	食・農業	9月からブロッコリーの苗植えをした。当番制でブロッコリー畑の水やりをしながら授業では並行してブロッコリーの種類や育て方、食べ方などブロッコリーに関する事を調べた。ブロッコリーが成長したタイミングで追肥を行い、作物をより大きく育てるコツを身をもって学んだ。12月には収穫をし、実際に自分たちが育てたブロッコリーを過程で味わった。食や農業を通して、作物を一から育てることの難しさを知り、美味しい食材をわたしたちのために一生懸命育ててくださる農家の方への感謝の気持ちをもつことができた。	みのりファーム

65	県央	小5	総合的な学習の時間	国際理解	<p>「多文化共生社会に向けて」というテーマを通年で、下記の流れで学習を進めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚木基地訪問 2. インタビューし、綾瀬市で生活する上で困っていることを聞く。 3. 綾瀬市に暮らす外国につながる人の困りやそれを支える方法を調べる。 4. 自分たちにできることを考え発表する。 <p>外国につながる人だけでなく、教室にいる私たち一人ひとり違う困りがあることを学習の過程で知ることができた。お互いを認め合い、思い合い、みんなで支え合っているとより良い綾瀬市、社会になるということに気づくことができた。</p>	協力：【厚木基地】 広報の方、軍人ボランティアの方、基地の学童に通う児童 【綾瀬市役所】 市民活動推進課
66	県央	小6	総合的な学習の時間	救命救急の重要性	<p>愛川町消防に来校してもらい、救命救急（心肺蘇生法）について、実践を通して学んだ。緊急性のある状況下でどのような対応ができるのか、命を救うことにつながる行動が自分にもとれることを自覚することができた。</p>	講師：愛川町消防署
67	県央	小4	総合的な学習の時間	福祉	<p>医療的ケアが必要な兄弟を持つ児童の保護者の方に講師をお願いして話を聞いた。医療的ケアが必要な方の日常生活の様子や家族の関わり、医療や福祉に携わる人の活動の様子等を聞く事で、それぞれの方々の思いを知る事ができた。その中でそれぞれの幸せとは何か考えた。</p>	保護者
68	県央	小5	総合的な学習の時間	異文化交流 国際理解	<p>総合の学習目標「絆を深めよう」のもと、連合音楽会に向けてサンバの合奏に挑戦している。その一環として、サンバの発祥地であるブラジル出身の講師を招いて、ブラジルへの理解、サンバの歴史についての理解を深めた。その後サンバの踊りを体験して、異文化に親しむことができた。</p>	
69	県央	小3	総合的な学習の時間	防災教育 「地震から命を守る」	<p>起震車と避難所資機材の組み立てを経験することとおして、災害時の対応や災害の恐ろしさについて学んだ。</p>	講師：危機管理室職員
70	中	小複合	総合的な学習の時間	いのちの学習 「出産と助産師の仕事」	<p>高学年児童に対し、命の大切さを知り、自他ともに生命を尊重する心や態度を育てるために計画された。現役の助産師をゲストティーチャーとしてお迎えし、生命の誕生についての理解を深め、理科的な側面のみならず、その素晴らしさを実感できる学習となった。また、児童にとっては普段はなかなか接する機会の少ない助産師の仕事の内容についても、具体的なお話を伺うことができた。</p>	
71	中	小6	総合的な学習の時間	キャリア教育 「海上保安庁の仕事」	<p>卒業を控えた6年生が、様々な職業の人々をゲストティーチャーとしてお迎えし、キャリア教育を実施した。その一環として、海での人命救助にあたる海上保安庁職員を迎え、海上保安庁の仕事と「人命救助」について学習を深めた。普段なかなか接することの無い職業の方から貴重なお話を伺うと共に、「命の大切さ」について考えることができた。</p>	

72	中	小4	総合的な学習の時間	福祉教育 「高齢者体験をしよう」	4年生は福祉学習の一環として、高齢者体験を実施した。車いすに乗って移動する体験では、段差や少しの傾斜でも進みにくいことを実感した。また、体に重りをつけて階段の上り下りをすると、足が思うように上がらず、大きな負担がかかることがわかった。この体験を通して、子どもたちは高齢の方の生活の大変さを身をもって学んだ。また、手助けが必要な場面を知ること、困っている人を見かけたら声をかけたり、優しく接したりすることの大切さに気付くことができた。	
73	中	小5	総合的な学習の時間	「稲刈りをしよう」	地域の農家の方々の協力を得ながら米作りに挑戦した。春には田植えを体験し、秋には収穫を迎え、自分たちの手で稲を刈り取り、脱穀や精米の工程も体験した。この活動を通して、子どもたちは食作物を作ることの苦労や大切さを実感した。また、農家の方々の工夫や努力に気付き、感謝の気持ちをもつようになった。さらに、仲間と協力して作業を進める中で、協力することの大切さも学んだ。	
74	中	小4	総合的な学習の時間	「災害から身を守る」	自然災害から身を守り、生き延びるために何が必要か、食の観点から考えた。生き延びるための栄養や心の健康を考え、自分たちが「あったらいいな」と思う防災食を開発し、市の災害対策課や地域の方へ防災の啓発を行った。災害を自分事として捉え、命をつなぐ方法を考えることができた。	
75	中	小3	総合的な学習の時間	福祉学習	一年間を通して、福祉について学習を深めた。ゲストティーチャーを招いて、講話を聴いたり、車いすバスケットボール体験や高齢者疑似体験を行ったりした。学習していく中で、周りの人を思いやる気持ちや周りの人と支え合って生きていくことの大切さに気付き、自分には何ができるのかについて考えを深めることができた。また、体の不自由な方と交流することによって、困難があっても前向きに生きる姿勢を学ぶことができた。	
76	中	小3	総合的な学習の時間	「かいこをそだてよう」	家畜として蚕を育てることを通して、蚕の命をいただくことで生糸を紡いだり、まゆ人形を作ったりすることができることを知り、私たち人間の生活が豊かになっていることを学習した。	
77	中	小6	総合的な学習の時間	福祉学習	福祉学習の一つとして、ALSの患者に来ていただき、一日の生活の流れなどについて話していただいた。「福祉」の観点で自分たちにどのようなことができるか、どんなことが大切かを考えることができた。また、生活するうえで大変なことや、日々の楽しみについても話していただけたことで、児童は、健康であることの大切さや、病気にも負けない強い気持ちなど、命について考えていた。	
78	中	小4	総合的な学習の時間	防災（土砂災害）教室	2パートに分かれての出前授業で、前半は外での体験活動として土のう袋の積み方体験を実施した。水が染み出さないことに驚くとともに、運び方なども習い、災害時は小学生でも手伝えることがあることを学んだ。後半は段ボールベッドの体験や講話を聞く機会があり、直近での市内の大雨被害の映像を見た際は、災害の恐ろしさを身近に感じていた。	

79	中	小5	総合的な学習の時間	秦野ジビエ「いのちをいただく」	ジビエ料理飲食店店主からは、ジビエとの出会いやフランスでのジビエ文化について話を聞いた。国によってジビエとなる動物の種類が異なること、生息している土地の作物と合わせた料理がおいしいことなどを学んだ。猟師からは、止め刺しの仕方や動物の命との向き合い方について話を聞いた。動物の命をいただくという行為は簡単なことではなく、動物たちの家族や生活を壊してしまうことであり、その重さについて初めて知る児童が多かった。普段自分たちが食べているジビエ以外の肉も、動物の命をいただいている結果だということに気づくことができた。	
80	中	小4	総合的な学習の時間	食育の指導「新しい大山菜」	大山の地域や自然に関する学習を行う中で、地元で脈々と受け継がれてきた伝統野菜「大山菜」の存在を知り、児童の願いから学校で栽培することにした。その準備にあたっては、地域学校協働活動推進委員さんのコーディネートのもと、JA職員の方と地元農家の方から、畑作りや手入れ、シカ避け柵の設置など様々なことをご協力いただきました。児童は、9月末の種まきから始め、水やりや雑草取りなど、いのちを育むことの大変さを実感しながら、大山菜の成長を見守った。途中、11月には栽培の経緯や大山菜について調べたこと等を全校児童に伝え、食材の大切さを訴える活動も行った。1月の収穫後には、協力者の方々と漬物づくりを行い、実際に大山菜を食することで、自然の恵みのありがたさを実感した。	JA湘南高部屋支店職員 地元農家ボランティア 地域学校協働活動推進委員
81	中	小3	総合的な学習の時間	「伊勢原“愛”」果樹を育てる方の思い	学区にあるみかん園へ行き、果樹を育てる方の思いと取り組みについて直接話をうかがった。また、みかんの花や1cmほどの実を観察させてもらった。11月にも果樹の様子を観察させてもらうことで、「あんなに小さかったのに大きくなったな」と、果樹の生長を感じられた。また、伊勢原の特産を育てる地域の方と直接交流できてよかった。	地域のみかん園の方
82	中	小3	総合的な学習の時間	カイコの研究をまとめよう	カイコガを飼育・観察してきた。児童は、カイコガがタマゴから幼虫、サナギ、成虫と成長し、交尾を経てまたタマゴを生み死んでいくという一生のサイクルに触れた。命が生まれ、一生懸命エサを食べて生き、次の世代に命を引き継いでいくことを飼育を通して体感した。しかしその後、絹糸を取るにはマユを干して殺さないで長く繋がった糸を取れないことを知り、「かわいそうだ」「でも糸は取りたい」と葛藤した。絹糸が手術の役に立つことや他の経済動物の例を想起したり学んだりし、命を頂いて我々人間が暮らしていること、他の生き物の命を貰って「ありがとう」「いただきます」と言っていることを改めて深く考える契機となった。2学期以降、糸取りやマユ人形作り、布作りに発展的に取り組む際にも命から頂いた糸と意識し、大切に扱っていた。	6月～3月 カイコガはこども科学館よりいただく。

83	中	小複合	総合的な学習の時間	学校飼育	本校の「特色のある教育活動」に位置づけられている飼育活動。学年によって飼育している動物が違い、それぞれの学年の児童が毎日世話をしている。夏休みに1羽のチャボが病気にかかり死んでしまったことは、子どもたちの心に「いのち」を考えるきっかけになったと実感している。チャボの死を目の当たりにした子どもたちは、「チャボが生きている環境をよりよくした方がいい。」「この小屋はチャボには優しくない。」など、自分たちなりの意見を持ち、チャボ小屋の引越計画が立ち上がった。チャボのいのちを大切にするために、生きているチャボにできることをしようと、動き始めた子どもたちをこれからも支えていきたい。	学校飼育動物 (2～6年)
84	中	小6	総合的な学習の時間	さつまいもを育てよう	本校の校長先生からいただいたさつまいも(安納芋)を育てた。学級園を耕して畝を作り、苗植えをした。さつまいもの成長を楽しみにしながら定期的に水まき、除草を行った。9月につる返しをした。10月に収穫をした。収穫をしたさつまいもは、スイートポテトや鬼まんじゅう、大学芋に調理をしておいしく食べた。自分たちで作った料理のおいしさを、他の教員に感謝の気持ちをもってプレゼントした。ひとつの野菜を収穫するまでに長い時間がかかることを知り、野菜の命を調理して感謝の気持ちをもっていただくことの大切さを学ぶことができた。	
85	中	小6	総合的な学習の時間	「いのちの誕生」	二宮町保健センターによる助産師の講話「いのちの授業」を毎年小学校6年生を対象に行っている。本年は12月18日に行った。卵子と精子の大きさを体感することから始まり、38週を胎内で過ごすこと、現在の心拍の2倍の速さで拍動していることなどを学んだ。新生児の赤ちゃん人形を抱っこする体験では、徐々に本物の赤ちゃんに対するように瞳を見つめたり、声をかけたりしてあやしたり慈しんだりしていた。参加した保護者からも新生児の頃を懐かしむ声が上がった。「生は奇跡であり宝物である。生きていてだけで100点満点」というメッセージは卒業を前にした6年生に生きる活力として伝わっていた。	ゲストティーチャー 二宮町保健センター 助産師・保健師 保護者も参加可
86	県西	小複合	総合的な学習の時間	ウミガメの命を守ろう	2018年に学区の海岸で「ウミガメの赤ちゃんが孵化した。」という情報があったことをきっかけに、海のゴミがウミガメなどの生き物の命を脅かしていることを学び始めた。今年度も環境美化委員会を中心に「ウミガメが来られる海岸にしたい。」という思いから、毎月一度程度、海岸清掃を計画し、縦割りのグループで全校一斉の海岸清掃を行った。子どもたちは「ウミガメの命を守ろう。」という思いをもち、総合的な学習の時間などでのSDGsの考え方も関連づけながら、生物の命について知識と体験を結びつけて学ぶことができた。	・各担任 ・環境美化担当
87	県西	小4	総合的な学習の時間	生命の尊さ	保健の学習で思春期になると女子は初経、男子は精通が起こるといったいろいろな体の変化について学んだ。このような変化はどんな意味があるのか実際に保健師さんを学校に招きお話を聞いた。妊婦さんを疑似体験することで、新しい命の存在に気づき、そのもとになるのが卵子と精子であることを知り生命の尊さについて考えることができた。自分達の体の変化は命を生み出す準備であることを理解した。	講師：小田原市保健センター 保健師 保健「体の中で起こる変化」の発展的な学習として

88	県西	小5	総合的な学習の時間	お米大作戦	6月からバケツ稲を大切に育て、10月に稲刈りを体験した。脱穀したあとの米を大切に拾い集めて瓶の中に収めた。普段食べているお米一粒一粒が「いのち」の集まりであることや1年かけて様々な作業を経て作られているということを学習した。その後、収穫した米をどうするのか話し合い、「食糧生産」「作る人の思い」について考えた。	JA農政課
89	県西	小4	総合的な学習の時間	ともに生きる「認知症サポーター養成講座」	高齢者について学習していく中で、認知症について話が出た。認知症という名前は知っているが、どんな病気でどんな予防ができるのかは知らないことが多いため、中井町健康課の方にご協力いただき、講話と本の読み聞かせを行った。講話では、物忘れと認知症の違いを絵で表し、どのような病気なのか詳しく知ることができた。また、本の読み聞かせでは、認知症に苦しむおばあちゃんに対してどのような対応をすればいいのか考え、認知症を自分事として考えるきっかけになった。高齢者の方がいる家庭が増えており、自分の家庭と重なる部分があった人も多かった。その分、児童は講話や読み聞かせを集中して聞いていた。	講師 中井町健康課 認知症のしくみ (PowerPoint) 本「ばあばは、だいじょうぶ」
90	県西	小5	総合的な学習の時間	マイ米づくり	社会科「米作りのさかんな地域」の発展的な学習活動として、バケツを使ったお米作りを行った。5月に籾から芽だし体験を経たことで、命の芽吹きに全員が接することができた。バケツに植える際にはJA職員の方に指導いただき、一人ひとりが自分のバケツに苗を丁寧に植える様子があった。水の管理や夏の中干し、害虫害鳥対策など収穫を願い、愛おしそうに大切に育てる様子があった。収穫の際には実りを喜び、脱穀や粃すりでは一粒も失くさないようにと大切に扱う姿があった。玄米の状態にし、それぞれ家に持ち帰った。	苗の準備と苗植えの指導は、JA職員に協力をお願いした。 夏休みはバケツを家庭に持ち帰り、管理の協力をお願いした。
91	県西	小複合	総合的な学習の時間	福祉 視覚障害の方の生活当事者の話	4～6年生の児童を対象に行った。全盲である先生がどのように普段の生活を送っているのか、動画を視聴したり話を聞いたりした。アイマスクをしながら音声解説を聞いたり、点字を触ったり、物当てをしたりするなどの体験をとおして、児童は視覚障害の方にどのように関わればよいか考えた。また、振り返りでは、「声掛けを多くしたり、説明を詳しくしたりする」「お手伝いしましょうかと、積極的に声を掛けていきたい」などの感想があった。	講師 平塚盲学校職員
92	県西	小6	総合的な学習の時間	マスの稚魚の放流	芦之湖漁業協同組合の協力により、マスの稚魚の放流を行った。マスの採卵と稚魚の放流は、統合前の箱根小学校で行われていた学習であり、今も箱根の森小学校で受け継がれている。 昨年度の11月（5年生の時）に採卵・受精させた稚魚を自分たちの手で芦ノ湖へ放流するという一連の学習を通して、児童は命の大切さを知り、生命の尊さについて思いを深めていた。	芦之湖漁業協同組合の協力により行う。 1年生の入学記念としても位置付けられている。

93	県西	小5	総合的な学習の時間	防災学習	<p>防災について学び、「自身の命を守るためにはどのような備えが必要かを知り行動に移せるようにしよう」と学習を進めた。消防署の方に救助活動の話を知りたり実際に煙道体験をしたりした。またハザードマップで自分の家や学校を確認してどの災害に対する備えが必要なのかを考えた。学習が進むにつれて、児童の中では自然災害は防ぎようがないため、減災を意識し被害を減らすために必要なことをしようという意識が育まれていった。また自助だけでなく、お互いに助け合う共助の大切さも実感していた。</p>	湯河原町地域政策課防災係の方・湯河原町消防・神奈川県総合防災センター
94	県西	小5	総合的な学習の時間	「湯河原の食とSDGs」	<p>「湯河原町の食＝魚」と考える児童が多かったことから、「湯河原の漁業」を学習のテーマにした。地元の漁港の漁師さんを招き、漁港や漁法、漁師の一日について話を聞き、漁業について関心を高めることができた。その中で、湯河原の漁港で行われている漁法・定置網漁はSDGsとつながりがあることがわかり、調べていった。後日、漁師さんを再度招き、調べた内容の発表を行った。海や海の命に優しい漁法をしている「湯河原の漁業」について学ぶことができ、自分たちにもできることがないか考え、「海の資源を大切にしたい」と思いをもつことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の漁港の漁師をゲストティーチャーとして活用 ・漁業についてのHP ・SDGsについてのHP
95	県西	小複合	総合的な学習の時間	潮だまりで生物採集・観察を通して普段の生活で目にする陸上の生物や生態系とは違った海の世界を楽しむとともに、それを育む環境を学ぶ	<p>近くにある舟付海岸において、磯の生物の観察会を行った。講師は海やその生態系を理解してもらおうと努めているディスカバールーの職員3名。講師からの諸注意の後、子供たちは磯の生物を実際に採集した。生物は種類ごとに分けられ、講師から名前や特徴の説明を受けた。最初は磯に入ることや海の生物を採集するのにためらいを感じる子供もいたが、次第に慣れ、普段できない体験に喜びを感じながら取り組んでいた。また、自分たちの身近にこのような豊かな自然や生命の営みがあるということを改めて感じる事ができた。</p>	ディスカバールー職員 3・4年生対象 総合的な学習の時間
96	県西	小複合	総合的な学習の時間	漁船体験を通して、郷土の人とふれあったり、郷土の地形を理解したりして、郷土を愛する心情を育てる。湯河原近海の自然の豊かさを知り、そこで育まれる命や環境を大切にしなければならないという心情を育てる。	<p>福浦漁港の漁業組合の協力のもと、漁船体験を行った。子供たちは漁船に乗って漁場へ行った。捕れた魚の名前や特徴、どんな魚が捕れるのか説明もあった。子供たちは湯河原の海の豊かさと、自然環境（命）を大切にしなければならないことを改めて感じる事ができた。</p>	講師 ・福浦漁港の漁師の皆さん 5・6年生対象 総合的な学習の時間